

# モニタリング結果報告書 (平成28年度)

## 1. 施設概要

施設名	神奈川県総合リハビリテーションセンター		
所在地	厚木市七沢 5 1 6		
サイトURL	http://www.kanagawa-rehab.or.jp		
根拠条例	神奈川県総合リハビリテーションセンター条例		
設置目的(設置時期)	心身障害者等の社会復帰を積極的かつ効果的に推進するため、福祉と医療の連携により、入所及び入院している者等に最も適した診断、治療及び機能回復訓練のほか、職業準備訓練、生活支援等を積極的に行うとともに、併せてこれらに関する研究を行い、総合的かつ一貫したリハビリテーションを実施するため(昭和48年4月)		
指定管理者名	社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団		
指定期間	平成28年4月1日～平成38年3月31日	施設所管課	県立病院課

## 2. 総合的な評価

総合的な評価の理由と今後の対応	
<p>評価については、収支状況はA、利用状況はB、利用者の満足度がA評価であったことから、3項目評価はA評価となった。今後は再整備を踏まえた適切な人員配置、業務の効率化、利用者サービスの向上等が求められる。利用状況については、再整備後の施設の有効活用により、改善を進めていくことができると考えている。</p>	
<p>&lt;各項目の詳細説明&gt;</p> <p>【管理運営等の状況】 再整備工事を行っている中であるが、概ね事業計画等の内容どおり事業を実施している。また、「さがみロボット産業特区」における実証実験機関として、引き続き県施策と連携を図っている。</p> <p>【利用状況】 福祉施設については、施設ごとにはばらつきがみられるものの、概ね前年度並みの利用者数であったが、福祉棟移転に伴い、一部目標を達成できなかった。病院については、神奈川リハ病院の入院については、年度後半に2病院統合に向けた患者数の調整を行ったことなどから、目標達成できなかった。七沢病院の入院については統合に向けて稼働病床数を削減したこともあり、利用者数が減少したが、閉院スケジュールぎりぎりまで患者確保に努めた。外来についても両病院とも前年度より減少した。再整備の途中ということもあり、判断が難しいが、実績を踏まえてB評価とした(S評価が2区分、A評価が1区分、B評価が6区分、C評価が3区分)。</p> <p>【利用者の満足度】 施設により10月～1月のいずれかで実施した。S評価が2施設2区分、A評価が4施設4区分だったため、A評価とした。</p> <p>【収支状況】 一部施設における利用者増による収入増、管理経費の執行抑制による支出減等により収支比率が101.72%となったためA評価とした。</p> <p>【苦情・要望等】 概ね利用者に理解が得られるような対応がとられている。</p> <p>【事故・不祥事等】 特になし</p> <p>【労働環境の確保に係る取組状況】 労働環境に関し、県による監査、労働基準監督署等からの指摘事項はない。</p>	
3項目評価	<p>S：極めて良好 A：良好 B：一部改善が必要 C：抜本的な改善が必要</p> <p>※3項目評価とは、3つの項目(利用状況、利用者の満足度、収支状況)の評価結果をもとに行う評価をいう</p>
A	

### 3. 月例・随時モニタリング実施状況の確認

月例業務報告 確認	遅滞・特記事項があった月	特記事項または遅滞があった場合はその理由
	—	—
現場確認	実施日	特記すべき事項があった場合はその内容
	適宜	—
随時モニタリングにおける指導・改善勧告等の有無	有・無	指導・改善勧告等の内容

### 4. 管理運営等の状況

[ 指定管理業務 ]

事業計画の提案内容	実施状況等	実施状況に関わるコメント
<p>1 高度専門性の発揮・県民サービスの向上 事業団は、リハセンターの指定管理者として、民間の病院や福祉施設では対応が難しい重度・重複障害者への医療・福祉サービスの提供と、リハビリテーションに関わる研究開発や地域のリハビリテーション活動を支える市町村等への支援をする。</p> <p>2 収益の確保、効率化 指定管理料の枠の中で安定的に運営するためには、給与制度と人員配置の見直しと、利用促進による収入確保や、給与水準見直しなどによる経費削減、業務執行方法や人員配置の見直しなどによる効率的な運営をする。</p> <p>3 リハセンターの再整備への対応 再整備に向けて、病院や福祉施設の段階的規模縮小を行う必要があり、それに伴う職員定数見直しや施設運営、事業展開をする。</p>	<p>1 病院と福祉施設、地域支援センターの連携により、病院での医療リハビリテーションから福祉施設での社会リハビリテーションをセットにして社会復帰に向けた支援を行うとともに、病院・福祉で培ったノウハウを県内の市町村、居宅介護支援事業所、ケアマネなどの地域資源に還元し、障害者が地域で自立した生活をしていけるよう、地域との連携を図った。</p> <p>2 給与制度の見直しについて組合交渉を行うとともに、人員配置の見直しを進めた。さらに、収益確保のため、利用者確保に向けた取り組みを実施した。</p> <p>3 リハセンターの医療・福祉機能の役割変化に対応するため、県から受託した再整備工事を円滑に実施するとともに、施設・病院の移転、施設定員及び病床削減を適切に実施した。平成28年6月に福祉棟がオープンし、医療と福祉の連携を強化するとともに障害種別を超えた受入環境を整えることができた。平成29年12月には新病院がオープンするが、それに先立ち平成29年4月に七沢リハビリテーション病院を神奈川リハビリテーション病院に統合し、新病院移転に向けた両病院間の組織と職員の融合を進めるなど、新病院の新たな機能展開のための準備を進めた。</p>	<p>リハセンターの再編整備にあたり、平成28年6月に福祉棟オープン、平成29年4月に七沢病院の統合を行うとともに、平成29年12月の新病院移転に向けた準備を着実に進めた。</p>

<p>福祉機能の充実 1 七沢学園 (1) 施設機能の充実 (2) 地域との連携強化 地域関係機関との情報交換や技術支援等、地域と一体となった福祉サービスを展開し連携を強化する。 (3) 利用者の視点に立った施設運営 利用者の人権擁護や個人情報の保護に努めるとともに、利用者の満足度調査を実施しよりよい利用者サービスが提供できるよう努める。 (4) 効率的・効果的な業務運営と経営改善 効率的・効果的な施設運営を行い、利用率の向上を図るため、関係機関との連携強化に取り組む。</p>	<p>(1) 福祉型障害児入所施設では、虐待やその傾向にあるケースと自閉症など広汎性発達障害やADHD（注意欠陥多動性障害）等を伴うケースの利用が依然として際立っている。 また、虐待等の措置入所のほか、短期間（1ヵ月～6ヵ月）の施設入所を通して、ADLの評価や改善、集団生活での行動観察や評価、家族のレスパイト等の課題を絞り込んで利用して「集中療育」を実施しており、平成28年度は入所定員30名のうち3名枠を設けて、利用者実人数は7名であった。 障害者支援施設では、日中活動支援の生活介護においては、強度行動障害者や医療ケアを必要とする利用者の健康維持を基本に機能や発達レベルに応じ機能維持訓練や軽作業、歩行訓練も行った。自立訓練（生活訓練）においては、利用者各々に合った個別作業を主とした支援を行った。 (2) 地域福祉支援事業では、電話や来園による相談支援を延べ1,754件、知的障害児通所機関巡回指導を63回実施した。 児童施設・成人施設ともに実施している短期入所事業では、家族の休養だけでなく、冠婚葬祭や疾病・出産の緊急対応、不登校・引きこもり対応などの社会的理由、また社会性拡大を目的とした施設体験などの支援も行った。その他、児童福祉法第33条に基づく緊急一時保護による入所の受入を行った。 また、地域の知的障害者やグループホーム等へ地域移行した退所者及び短期入所のうち生活介護の受給者証を所持する者を対象として日中活動支援（通所訓練）を提供した。 (3) 第三者からなる苦情解決委員により、知的障害児者及び身体障害者については月2回、重症心身障害児者については月1回の相談日を設け適切かつ公正に対応するとともに、施設毎の苦情解決第三者委員との情報交換等連携を図るため苦情解決連絡会を年2回実施した。 (4) 被虐待児など家庭復帰が困難になりがちな利用者の受入が多かったものの、養護学校や地域の相談支援事業所との情報交換や、受入家庭へのきめ細やかな対応を行い、家庭復帰率の経営改善目標を達成した。</p>	<p>平成28年6月に福祉棟オープンとなるなかで、円滑に施設移転を行った。また利用者支援を着実に進めた。</p>
---	---	--

<p>2 七沢療育園</p> <p>(1) 施設機能の充実</p> <p>(2) 地域との連携強化</p> <p>地域関係機関との情報交換や技術支援等、地域と一体となった福祉サービスを展開し連携を強化する。</p> <p>(3) 利用者の視点に立った施設運営</p> <p>利用者の人権擁護や個人情報の保護に努めるとともに、利用者の満足度調査を実施しよりよい利用者サービスが提供できるよう努める。</p> <p>(4) 効率的・効果的な業務運営と経営改善</p> <p>効率的・効果的な施設運営を行い、利用率の向上を図るため、関係機関との連携強化に取り組む。</p>	<p>(1) 重度の知的障害と肢体不自由を併せ持つ重症の心身障害児(者)に医療の提供と機能回復のための療育及び日常生活助言・援助を行い、障害の軽減と家庭での介護支援に努めた。平成28年度の入所事業は172人の利用者を受け入れ、169人が退所した。</p> <p>また、前年度と同様に密度の高い医療体制を維持し、超・準超重症心身障害児(者)52人を継続して受け入れた。</p> <p>(2) 地域福祉支援事業では、「在宅重症心身障害児(者)療育訪問指導事業」を33回、延べ33人に実施した。特に施設機能を利用する必要がある児(者)と保護者の療育支援を行う「重心親子教室」については、2回、参加者6人(保護者を含む)で実施した。</p> <p>短期入所事業は、在宅の重症心身障害児(者)の家族等の疾病、出産、休養などの理由で実人数144人、延べ877人が利用した。</p> <p>(3) 第三者からなる苦情解決委員により、知的障害児者及び身体障害者については月2回、重症心身障害児者については月1回の相談日を設け適切かつ公正に対応するとともに、施設毎の苦情解決第三者委員との情報交換等連携を図るため苦情解決連絡会を年2回実施した。</p> <p>(4) 中長期入所の突然のキャンセルなどで空床となった分は短期入所で利用して利用率の向上を図った。</p>	<p>重度の長期入所者に加え、中短期入所により、在宅重症心身障害児(者)の支援を積極的に行った。</p>
---	--	--

<p>3 七沢自立支援ホーム</p> <p>(1) 施設機能の充実</p> <p>(2) 地域との連携強化</p> <p>地域関係機関との情報交換や技術支援等、地域と一体となった福祉サービスを展開し連携を強化する。</p> <p>(3) 利用者の視点に立った施設運営</p> <p>利用者の人権擁護や個人情報保護に努めるとともに、利用者の満足度調査を実施しよりよい利用者サービスが提供できるよう努める。</p> <p>(4) 効率的・効果的な業務運営と経営改善</p> <p>効率的・効果的な施設運営を行い、利用率の向上を図るため、関係機関との連携強化に取り組む。</p>	<p>(1) 肢体不自由者については、神奈川リハビリテーション病院（以下「神奈川リハ病院」という。）と連携して、身体機能の回復・改善、職業能力・社会生活力の向上に必要な支援を行い、社会参加、家庭復帰が円滑に行えるように努めた。</p> <p>中途視覚障害者に対しては、社会生活力の向上を目指して、歩行能力の回復、点字の読み書き習得、情報機器の活用、身辺管理・家事動作技術の習得、ロービジョン評価・訓練、視覚障害者スポーツなど地域での在宅生活に向けての支援を行った。</p> <p>(2) 地域福祉支援事業では地域における障害者や退所後の利用者等に通所訓練を実施し、職場復帰に向けた支援、家庭復帰後の生活の質の向上及び社会生活に向けた支援等を提供した。更に視覚障害者に対しては訪問訓練を実施し、平成28年度は延べ利用者数28人に提供した。</p> <p>また、短期入所事業では、在宅の肢体不自由者を中心に家族等の疾病、休養などの理由で短期的に利用する方等で実人数83人、延べ521人の受入を行った。</p> <p>その他に受託評価事業では、肢体不自由児(者)を対象とし、支援学校（支援学級）在学者の進路指導や施設利用者の生活自立支援に資するため、神奈川リハ病院と連携して、医学・心理・職能・社会生活等の評価を行っており、平成28年度の利用者数は実人数16人、延べ63人であった。県内の盲学校等に在籍する視覚障害児(者)を対象に神奈川リハ病院眼科と連携し、視機能・触察能力・日常生活動作・コミュニケーション能力等の評価を行う受託評価事業の利用者数は、実人数1人、延べ5人であった。</p> <p>(3) 各福祉施設が提供する福祉サービスに関する、利用者や家族からの苦情については、第三者からなる苦情解決委員により、知的障害児者及び身体障害者については月2回、重症心身障害児者については月1回の相談日を設け適切かつ公正に対応するとともに、施設毎の苦情解決第三者委員との情報交換等連携を図るため苦情解決連絡会を年2回実施した。</p> <p>(4) 地域の介護保険事業の充実により、従来回復期病院から直接入所することが主流であった受入ルートが、療養病床や老人保健施設等を経由して当施設へ入所するルートに変化しつつあることから、新しい受入ルートの開拓に取り組んだ。</p>	<p>前年度と同様に入所者退所後の地域支援への移行に向けて支援を行った。また、入所者の増に向けて新しい受入ルートの開拓に取り組んだ。</p>
--	---	--

<p>病院機能の充実</p> <p>1 神奈川リハビリテーション病院</p> <p>(1) リハビリテーション機能の充実</p> <p>(2) 地域との連携強化 急性期病院との連携による迅速な患者受け入れや、退院後のスムーズな地域生活への移行のため、関係機関と連携を強化する。</p> <p>(3) 患者の視点に立った病院経営 患者への満足度調査を実施し、よりよい利用者サービスが提供できるよう努める。患者・家族が診療内容をよく理解し、納得して医療を受けられるよう患者への十分な説明と同意による医療を行うとともに、クリティカルパスを推進するなど患者にとってわかりやすい医療の提供に努める。</p> <p>(4) 効率的・効果的な業務運営と経営改善 効率的・効果的な病院運営を行い、利用率を向上し収益拡大を図るため、地域連携を強化して患者確保に努め、入院審査の迅速化を実施する。</p>	<p>(1) 脊髄障害、脳外傷、骨・関節疾患、神経疾患等に対して、リハビリテーション医療（診断、評価、治療、看護、リハビリテーション訓練等）を提供し、患者の早期社会復帰を図っている。平成28年度の入院患者数は、延82,633人（実入院患者数1,182人）で、一日平均の入院患者数は226.4人（一日平均入院率80.9%）であった。入院申込者は1,435人であった。退院患者数は、1,170人で、家庭復帰が1,046人（89.4%）と最も多く、次いで施設入所63人（5.3%）、転院54人（4.7%）、死亡7人（0.6%）となっている。外来患者数は、延65,965人（一日平均225.1人）であった。</p> <p>(2) 当院の患者特性として、介護保険が使えず家庭復帰が難しい40歳未満の若年層が多いにもかかわらず、入院相談からソーシャルワーカーが積極的に関わり、退院や社会参加に向けて院内の連携や諸調整を行い、家庭復帰率の経営改善目標を達成した。</p> <p>(3) 入院患者満足度調査、外来患者満足度調査を実施した。また、アドボカシー室において、利用者からの要望、苦情に対する回答として院内表示及び郵送などによる対応を行った。</p> <p>脊髄障害、高次脳機能障害、変形性股関節症（術中を含む）、小児脳損傷、脳血管障害に対応したクリニカルパスにより、患者にとってわかりやすい医療を提供するとともに、平均在院日数の短縮、安定的治療、ベッドコントロールの円滑化を図った。</p> <p>(4) 当病院のソーシャルワーカーの事前患者情報収集の強化、急性期病院に入院中から、患者情報を収集し、病態、生活環境などを把握し、患者受入手続きの円滑化を図るとともに、PMF (patient flow management)の導入によって、入院後の患者への看護の提供について効率化を図った。</p>	<p>年度後半に2病院統合にへ向け、七沢病院の受入のための患者数の調整を行った。通院患者の自宅復帰や退院後の就労・復職支援等について前年度と同様に実施し、家庭復帰率の目標達成など一定の成果を上げた。</p>
--	---	---

2 七沢リハビリテーション病院脳血管センター

(1) リハビリテーション機能の充実

(2) 地域との連携強化

急性期病院との連携による迅速な患者受け入れや、退院後のスムーズな地域生活への移行のため、関係機関と連携を強化する。

(3) 患者の視点に立った病院経営  
患者への満足度調査を実施しよりよい利用者サービスが提供できるよう努めます。患者・家族が診療内容をよく理解し、納得して医療を受けられるよう患者への十分な説明と同意による医療を行うとともに、クリティカルパスを推進するなど患者にとってわかりやすい医療の提供に努める。

(4) 効率的・効果的な業務運営と経営改善

利用率の向上と収益の拡大を図るため、患者紹介元病院の連携を強化するために県内各地区の脳卒中連携パスへの積極的な参加、休日リハビリテーション訓練を安定的に実施し訓練単位数の増を図る。

(1) 保健、医療、福祉の多角的な視野に立ち、脳卒中の予防から早期の診断、治療、リハビリテーションまで一貫した医療に取り組んでいる。

入院患者数は、延べ32,658人(実入院患者数 347人)で、一日平均の入院患者数は89.5人(一日平均入院率89.5%)であった。これを機能別の入院患者数で見ると、一般リハ入院25,636人(78.5%)、早期リハ入院6,955人(21.3%)、生活習慣改善入院67人(0.2%)の順になっている。入院申込者は469人であった。

退院患者数は439人で、家庭復帰が290人(66.1%) (うち職業復帰72人、16.4%)と最も多く、次いで施設入所50人(11.4%)、転院99人(22.6%)等となっている。

外来患者数は延べ4,767人(一日平均16.3人)であった。

(2) 患者、家族向けには脳卒中に関する予防、治療、リハなど家庭での生活方法の講座を毎月1回開催するとともに脳卒中予防対策として「生活習慣改善入院」、退院後のフォロー、廃用症候群の防止のための「リハビリテーション教育入院」を実施した。

(3) 入院患者満足度調査、外来患者満足度調査を実施した。また、アドボカシー室において、利用者からの要望、苦情に対する回答として院内表示及び郵送などによる対応を行った。

医療の質の向上を図るため、クリティカルパスによる入院から退院までの一貫した流れを図式化し、患者を含め情報を横断的に共有できることで入院期間の短縮やチーム医療の徹底を図った。

(4) 脳卒中リハビリテーション医療のリーダーとして当院が推進してきた地域連携パスも普及し、全県区を診療圏としている当院は、10の地域連携ネットワークの連携医療機関となり普及啓発活動を行った。患者確保、収益確保のため365日リハビリテーション訓練を実施し、患者サービスの向上に努めた。

平成28年度末の神奈川リハビリテーション病院への移転を控え、閉院スケジュールぎりぎりまで患者確保に努め、高い利用率を上げた。

<p>調査、研究・開発事業</p> <p>1 リハビリテーションに関する調査、研究・開発</p> <p>医療と福祉を一体的に運営しているという特徴を生かし、医学的・工学的・社会福祉学的領域において調査、研究・開発を行い、医療・福祉の向上に向け取り組む。また、神奈川県による県民生活の安全・安心の確保及び地域社会の活性化を実現するための「さがみロボット産業特区」における生活支援ロボットの実証実験の場として位置付けられたことから、事業団としてもリハビリに役立つロボットの実用化に向けて、産学公の連携による実証実験を引き続き行い、専門的な立場、臨床的な立場から評価・助言を行う。</p>	<p>1) 障害発生の原因の解明とそれに基づく予防対策の確立、2) 障害発生の除去、修復メカニズムの解明、3) 障害者の自立促進のための研究の3つの基本理念をもとに、医療と福祉を一体的に運営しているという特徴を生かし医学的、工学的、社会福祉学的領域において調査、研究・開発を行ない医療・福祉の向上に向け取り組んだ。</p> <p>研究は、1) 障害児者におけるリハビリテーションアプローチに関する研究、2) 障害児者に関する計測的・工学的研究、3) 障害児者の生活の質に関する研究の3分野を重点に調査、研究・開発を行った。研究の主な対象は、神奈川リハ病院では、①骨関節疾患（変形性股関節疾患）、②脊髄損傷及び脊髄疾患、③神経難病（小児てんかんや知的発達障害も含む）、④高次脳機能障害、七沢病院脳血管センターでは、主に脳血管障害（脳出血、脳軟化、くも膜下出血など）、福祉部門では、①強度行動障害児者、②ロービジョン障害者となっている。</p> <p>研究成果の普及・啓発を図るために、「かなりは リハ工学・福祉機器フェスティバル2016」をリハビリテーション工学研究室を中心に開催した。また、神奈川県総合リハビリテーションセンター研究発表会を開催した。（一般演題15題、ポスター発表4題）研究成果を情報発信するとともに、関連の専門分野学会等において発表を行った。</p> <p>平成28年度の主な研究成果として佐賀大学、株式会社岡村製作所との共同研究である3-4「足駆動による短距離移動が容易な椅子の開発」では、高齢者・障害者による椅子の使用評価、開発成果のまとめを行っている。5-1「障害者スポーツと機器に関する研究開発」では、チェアスキー ソチモデル(市販モデル)を製作した。</p> <p>情報サービス事業では、図書、文献、資料等の収集・提供、医学・研究等のフォトサービス、研究会や講演会における機材の貸し出し、また医療・福祉情報の集積や調査を行った。図書関係については、高度専門性を維持・発展させるため、常に最新の情報や知識の提供ができるように雑誌105種を購入し図書室専門書の充実を図った。</p> <p>「さがみロボット産業特区」における生活支援ロボットの実証実験の場としてリハセンターが位置づけられている。リハビリに役立つロボットの実用化に向けて、実証実験の協力を行ない、リハビリテーションにおける効果検証や、製品に対する評価・改善点の提言を行なった。また、県や市のロボット産業に関する協議会等に委員出席を行うことや、県主催の研究会における講演協力、横浜国立大学の行う研究への参画などを行った。</p>	<p>前年度と同様に関係機関と連携した臨床的・実証的な調査・研究等を継続して実施した。また、引き続き「さがみロボット産業特区」における医療・介護用ロボットの実証試験機関として、県施策と連携した取り組みを実施した。</p>
---	---	--

<p>地域へのリハビリテーション支援事業 県から指定を受けている「神奈川県リハビリテーション支援センター」として、地域リハビリテーション支援を行うとともに、「高次脳機能障害支援普及事業」の支援拠点機関として、地域の相談体制の整備や研修に取り組む。 全県的な立場からの地域支援事業として、関係機関等との連携強化、地域支援ネットワークの充実、専門相談、地域人材の育成研修、リハビリテーションの情報収集・提供等を実施する。</p>	<p>リハビリテーション専門研修、地域リハビリテーション支援に関連する活動、県委託事業である神奈川県リハビリテーション支援センター事業を行っている。県委託事業に関してはリハビリテーション情報の提供、人材育成、関係機関の連携を推進する業務を行っている。高次脳機能障害支援室では「高次脳機能障害支援普及事業(国事業)」の支援拠点機関として支援コーディネーターと心理判定員が配置されており、高次脳機能障害者への相談支援、普及啓発活動、研修事業等を行っている。</p> <p>1 リハビリテーション専門研修 医療・保健・福祉・介護専門職を対象とした研修で、二つの県委託事業を含め平成28年度は21コースを実施し、受講者の総数は延べ955名であった。今年度は新たに「脊髄損傷のリハビリテーション・ロボット編」、「視覚障害のある方への支援」を開催した。</p> <p>2 地域リハビリテーション支援関連活動 (1) 「かながわ地域リハビリテーション支援連絡会」政令市のリハセンターとの連絡会 (3回) (2) 地域医療介護連携会議等への参加 ①「厚愛地区医療介護連携会議」への出席 (7回) ②「神奈川県小児等在宅医療推進会議」、「厚木地区および小田原地区小児等在宅医療連絡会議」(5回) ③「自立支援協議会(県、保健福祉圏域、市町村)」(4団体・延5回) (3) リハ専門関連団体との連携 (湘南地域リハビリテーション連絡会、伊勢原市リハビリテーション地域医療介護連携会と協働で研修会を開催) (4) 障害者更生相談所等 補装具支給についての神奈川県からの評価・判定協力委託業務 (5件) 3 保健福祉事務所への難病患者支援研修等の協力 4 その他の行政機関主催の研修や委員会等への職員派遣</p>	<p>前年度と同様に、地域リハビリテーションシステムの構築のための取組みを継続して実施した。また、引き続き「さがみロボット産業特区」における医療・介護用ロボットの実証試験機関として、県施策と連携した取り組みを実施した。</p>
--	--	---

[ 参考：自主事業 ]

事業計画の提案内容	実施状況等

## 5. 利用状況

### (1) 七沢学園（児童・入所）

評価	≪評価の目安≫ 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりに定員数等を記載してください。
B	

	前々年度	前年度	平成28年度
利用者数※	9,431	9,674	9,924
対前年度比		102.6%	102.6%
目標値	9,855	10,033	10,731
目標達成率	95.7%	96.4%	92.5%

目標値の設定根拠：平成28年度は1日当たり29.4人（98.0%）とした

利用者数の算出方法（対象）：年間延べ利用者数を集計した

[ 参考：最大利用可能人数／年 ]

						合計
定員	30					
年間利用可能日数	365					
最大人数※	10,950	0	0	0	0	10,950
稼働率	91%	%	%	%	%	

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

### (2) 七沢学園（児童・地域支援【短期入所、家族短期、家族一日】）

評価	≪評価の目安≫ 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりに定員数等を記載してください。
B	

	前々年度	前年度	平成28年度
利用者数※	700	658	623
対前年度比		94.0%	94.7%
目標値	579	700	720
目標達成率	120.9%	94.0%	86.5%

目標値の設定根拠：平成28年度は短期入所を延べ720人とした

利用者数の算出方法（対象）：年間延べ利用者数を集計した

[ 参考：最大利用可能人数／年 ]

						合 計
定 員						
年間利用可能日数						
最大人数※	0	0	0	0	0	0
稼働率	#DIV/0!	%	%	%	%	

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(3) 七沢学園（成人・入所）

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりに定員数等を記載してください。
A	

	前々年度	前年度	平成28年度
利用者数※	14,721	13,335	10,787
対前年度比		90.6%	80.9%
目 標 値	19,710	15,310	10,194
目標達成率	74.7%	87.1%	105.8%

目標値の設定根拠：平成28年度は1日当たり27.9人（93.1%）とした

利用者数の算出方法（対象）：年間延べ利用者数を集計した

[ 参考：最大利用可能人数／年 ]

						合 計
定 員	30					
年間利用可能日数	365					
最大人数※	10,950	0	0	0	0	10,950
稼働率	99%	%	%	%	%	

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(4) 七沢学園（成人・地域支援【短期入所】）

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりに定員数等を記載してください。
S	

	前々年度	前年度	平成28年度
利用者数※	1,164	1,473	1,380
対前年度比		126.5%	93.7%
目 標 値	360	774	935
目標達成率	323.3%	190.3%	147.6%

目標値の設定根拠：平成28年度は短期入所を延べ935人とした

利用者数の算出方法（対象）：年間延べ利用者数を集計した

[ 参考：最大利用可能人数／年 ]

						合 計
定 員						
年間利用可能日数						
最大人数※	0	0	0	0	0	0
稼働率	#DIV/0!	%	%	%	%	

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(5) 七沢療育園（入所）

評価	≪評価の目安≫ 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりに定員数等を記載してください。
B	

	前々年度	前年度	平成28年度
利用者数※	13,159	13,272	13,240
対前年度比		100.9%	99.8%
目 標 値	13,140	13,775	13,807
目標達成率	100.1%	96.3%	95.9%

目標値の設定根拠：平成28年度は1日当たり37.8人（97.0%）とした

利用者数の算出方法（対象）：年間延べ利用者数を集計した

[ 参考：最大利用可能人数／年 ]

						合 計
定 員	39					
年間利用可能日数	365					
最大人数※	14,235	0	0	0	0	14,235
稼働率	93%	%	%	%	%	

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(6) 七沢療育園（地域支援【短期入所、重心親子教室、療養訪問指導】）

評価	≪評価の目安≫ 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりに定員数等を記載してください。
S	

	前々年度	前年度	平成28年度
利用者数※	917	958	877
対前年度比		104.5%	91.5%
目 標 値	498	518	700
目標達成率	184.1%	184.9%	125.3%

目標値の設定根拠：平成28年度は短期入所を延べ700人とした

利用者数の算出方法（対象）：年間延べ利用者数を集計した

[ 参考：最大利用可能人数／年 ]

						合 計
定 員						
年間利用可能日数						
最大人数※	0	0	0	0	0	0
稼働率	#DIV/0!	%	%	%	%	

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(7) 七沢自立支援ホーム（入所）

評価	≪評価の目安≫ 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりに定員数等を記載してください。
B	

	前々年度	前年度	平成28年度
利用者数※	20,025	20,096	16,331
対前年度比		100.4%	81.3%
目 標 値	23,725	22,698	17,173
目標達成率	84.4%	88.5%	95.1%

目標値の設定根拠：平成28年度は1日当たり47.0人（94.1%）とした

利用者数の算出方法（対象）：年間延べ利用者数を集計した

[ 参考：最大利用可能人数／年 ]

						合 計
定 員	50					
年間利用可能日数	365					
最大人数※	18,250	0	0	0	0	18,250
稼働率	89%	%	%	%	%	

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(8) 七沢自立支援ホーム（地域支援【短期入所、通所、受託評価】）

評価	≪評価の目安≫ 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりに定員数等を記載してください。
C	

	前々年度	前年度	平成28年度
利用者数※	2,143	1,356	589
対前年度比		63.3%	43.4%
目 標 値	2,903	3,239	1,372
目標達成率	73.8%	41.9%	42.9%

目標値の設定根拠：平成28年度は短期入所を延べ1,372人とした

利用者数の算出方法（対象）：年間延べ利用者数を集計した

[ 参考：最大利用可能人数／年 ]

						合 計
定 員						
年間利用可能日数						
最大人数※	0	0	0	0	0	0
稼働率	#DIV/0!	%	%	%	%	

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(9) 神奈川リハビリテーション病院（入院）

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりに定員数等を記載してください。
B	

	前々年度	前年度	平成28年度
利用者数※	80,319	87,713	82,633
対前年度比		109.2%	94.2%
目 標 値	91,980	94,428	91,980
目標達成率	87.3%	92.9%	89.8%

目標値の設定根拠：七沢病院との統合を見据え、平成28年度は1日当たり252人（90.0%）とした

利用者数の算出方法（対象）：年間延べ利用者数を集計した

[ 参考：最大利用可能人数／年 ]

						合 計
定 員	280					
年間利用可能日数	365					
最大人数※	102,200	0	0	0	0	102,200
稼働率	81%	%	%	%	%	

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(10) 神奈川リハビリテーション病院（外来）

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりに定員数等を記載してください。
C	

	前々年度	前年度	平成28年度
利用者数※	72,724	70,455	65,965
対前年度比		96.9%	93.6%
目 標 値	87,900	88,200	87,900
目標達成率	82.7%	79.9%	75.0%

目標値の設定根拠：1日あたり外来患者数を延べ300人（稼働日数293日）とした

利用者数の算出方法（対象）：年間延べ利用者数を集計した

[ 参考：最大利用可能人数／年 ]

						合 計
定 員						
年間利用可能日数						
最大人数※	0	0	0	0	0	0
稼働率	#DIV/0!	%	%	%	%	

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(1 1) 七沢リハビリテーション病院脳血管センター（入院）

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりに定員数等を記載してください。
B	

	前々年度	前年度	平成28年度
利用者数※	42,733	36,741	32,658
対前年度比		86.0%	88.9%
目 標 値	55,115	33,306	33,215
目標達成率	77.5%	110.3%	98.3%

目標値の設定根拠：神奈川県リハビリ病院との統合を見据え、平成28年度は1日当たり91.0人（91.0%）とした

利用者数の算出方法（対象）：年間延べ利用者数を集計した

[ 参考：最大利用可能人数／年 ]

						合 計
定 員	100					
年間利用可能日数	365					
最大人数※	36,500	0	0	0	0	36,500
稼働率	89%	%	%	%	%	

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(1 2) 七沢リハビリテーション病院脳血管センター（外来）

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりに定員数等を記載してください。
C	

	前々年度	前年度	平成28年度
利用者数※	6,131	5,571	4,767
対前年度比		90.9%	85.6%
目 標 値	14,650	8,820	8,790
目標達成率	41.8%	63.2%	54.2%

目標値の設定根拠：1日あたり外来患者数を30人とした

利用者数の算出方法（対象）：年間延べ利用者数を集計した

[ 参考：最大利用可能人数／年 ]

						合計
定員						
年間利用可能日数						
最大人数※	0	0	0	0	0	0
稼働率	#DIV/0!	%	%	%	%	

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

## 6. 利用者の満足度

### (1) 七沢学園（児童・成人）

評価	<<評価の目安>> 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、S：90%以上 A：70%以上～90%未満 B：50%以上～70%未満 C：50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う
A	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施	実施期間：平成28年11月11日～平成28年11月22日実施

[ サービス内容の総合的評価 ]

質問内容 安心した生活、プライバシーの保護、相談事への対応、施設の印象

実施した調査の配布方法 聞き取り 回収数／配布数 44 / 44 = 100.0%

配布(サンプル)対象 利用者本人

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
サービス内容の総合的評価の回答数	19	11	6	3	39	就寝時間の変更希望
回答率	48.7%	28.2%	15.4%	7.7%		
前年度の回答数	23	2	1	5	31	
前年度回答率	74.2%	6.5%	3.2%	16.1%		
回答率の対前年度比	65.7%	437.2%	476.9%	47.7%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

[ 参考：職員の対応状況 ]

質問内容 挨拶、身だしなみ、丁寧さ・優しさ、相談しやすさ、約束を守ってもらえるか

実施した調査の配布方法 聞き取り 回収数/配布数 44 / 44 = 100.0%

配布(サンプル)対象 利用者本人

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答が あった場合はその理由
職員の対応状況の 回答数	20	13	3	3	39	人によって対応の仕方が 違う。
回答率	51.3%	33.3%	7.7%	7.7%		
前年度の 回答数	25	5	2	4	36	
前年度回答率	69.4%	13.9%	5.6%	11.1%		
回答率の 対前年度比	73.8%	240.0%	138.5%	69.2%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

[ 参考：その他 ]

(2) 七沢療育園

評価	《評価の目安》 「満足」(上位二段階の評価)と答えた割合が、S：90%以上 A：70%以上～90%未満 B：50%以上～70%未満 C：50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う
S	

満足度調査の 実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の 向上を目的として実施	実施期間：平成28年10月1日～平 成28年10月26日

[ サービス内容の総合的評価 ]

質問内容 施設のルール、行事・活動・食事

実施した調査の配布方法 郵送 回収数/配布数 23 / 31 = 74.2%

配布(サンプル)対象 長期利用者の家族(保護者等)

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答が あった場合はその理由
サービス内容の総合 的評価の回答数	15	6	1	0	22	
回答率	68.2%	27.3%	4.5%	0.0%		
前年度の 回答数	12	5	0	1	18	
前年度回答率	66.7%	27.8%		5.6%		
回答率の 対前年度比	102.3%	98.2%	#VALUE!	0.0%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

[ 参考：職員の対応状況 ]

質問内容 医師、看護師、生活支援員、事務職員等の対応状況

実施した調査の配布方法 郵送 回収数/配布数 23 / 31 = 74.2%

配布(サンプル)対象 長期利用者の家族(保護者等)

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答が あった場合はその理由
職員の対応状況の 回答数	19	3	0	0	22	
回答率	86.4%	13.6%	0.0%	0.0%		
前年度の 回答数	14	6	0	0	20	
前年度回答率	70.0%	30.0%	0.0%	0.0%		
回答率の 対前年度比	123.4%	45.5%	0.0%	0.0%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

[ 参考：その他 ]

--

### (3) 七沢自立支援ホーム

評価	《評価の目安》 「満足」(上位二段階の評価)と答えた割合が、S:90%以上 A:70%以上~90%未満 B:50%以上~70%未満 C:50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う
A	

満足度調査の 実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の 向上を目的として実施	実施期間：平成28年12月12日～平 成28年12月22日

[ サービス内容の総合的評価 ]

質問内容 施設のルール、集団生活、行事、食事、入浴、清掃

実施した調査の配布方法 個別配布、聞き取り 回収数/配布数 42 / 52 = 80.8%

配布(サンプル)対象 利用者本人

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答が あった場合はその理由
サービス内容の総合 的評価の回答数	19	15	5	1	40	コストがかかることへの 対応が遅い
回答率	47.5%	37.5%	12.5%	2.5%		
前年度の 回答数	15	11	5	5	36	
前年度回答率	41.7%	30.6%	13.9%	13.9%		
回答率の 対前年度比	114.0%	122.7%	90.0%	18.0%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

[ 参考：職員の対応状況 ]

質問内容 挨拶・言葉づかい、身だしなみ、個人の尊重、相談しやすさ、信頼度、迅速・正確さ、専門知識

実施した調査の配布方法 個別配布、聞き取り 回収数/配布数 42 / 52 = 80.8%

配布(サンプル)対象 利用者本人

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答が あった場合はその理由
職員の対応状況の 回答数	19	10	3	0	32	プランを立てていただいた時に目標を話して欲しかった。
回答率	59.4%	31.3%	9.4%	0.0%		
前年度の 回答数	21	12	2	2	37	
前年度回答率	56.8%	32.4%	5.4%	5.4%		
回答率の 対前年度比	104.6%	96.4%	173.4%	0		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

[ 参考：その他 ]

--

#### (4) 神奈川リハビリテーション病院 (入院)

評価	<<評価の目安>> 「満足」(上位二段階の評価)と答えた割合が、S:90%以上 A:70%以上~90%未満 B:50%以上~70%未満 C:50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う
A	

満足度調査の 実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の 向上を目的として実施	実施期間：平成28年10月3日～平 成28年10月14日

[ サービス内容の総合的評価 ]

質問内容 病院全般についての満足度

実施した調査の配布方法 病棟で配布 回収数/配布数 181 / 218 = 83.0%

配布(サンプル)対象 入院患者

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答が あった場合はその理由
サービス内容の総合的評価の回答数	64	42	10	3	119	新棟に入院しているが古く、とても新棟とは言えないと思う。トイレの流すスイッチが重いと届かないのが不便。患者に貸し出すクッションが古く中のスポンジがボロボロとちぎれおちてくる。とにかく汚い。
回答率	53.8%	35.3%	8.4%	2.5%		
前年度の回答数	58	72	7	0	137	
前年度回答率	42.3%	52.6%	5.1%			
回答率の対前年度比	127.0%	67.2%	164.5%	#VALUE!		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

[ 参考：職員の対応状況 ]

質問内容 施設職員の対応状況

実施した調査の配布方法 病棟で配布 回収数/配布数 181 / 218 = 83.0%

配布(サンプル)対象 入院患者

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答が あった場合はその理由
職員の対応状況の回答数	68	25	5	2	100	言葉使いが悪い、上から目線の話し方。
回答率	68.0%	25.0%	5.0%	2.0%		
前年度の回答数	94	48	2	1	145	
前年度回答率	64.8%	33.1%	1.4%	0.7%		
回答率の対前年度比	104.9%	75.5%	362.5%	290.0%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

[ 参考：その他 ]

(5) 神奈川リハビリテーション病院 (外来)

評価	《評価の目安》 「満足」(上位二段階の評価)と答えた割合が、S:90%以上 A:70%以上~90%未満 B:50%以上~70%未満 C:50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う
S	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施	実施期間：平成29年1月16日～平成29年1月20日

[ サービス内容の総合的評価 ]

質問内容 病院全般についての満足度

実施した調査の配布方法 外来窓口で配布 回収数/配布数 351 / 428 = 82.0%

配布(サンプル)対象 外来患者

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
サービス内容の総合的評価の回答数	214	84	4	2	304	遠いので他の方に紹介したいと思わない。
回答率	70.4%	27.6%	1.3%	0.7%		
前年度の回答数	261	118	7	2	388	
前年度回答率	67.3%	30.4%	1.8%	0.5%		
回答率の対前年度比	104.6%	90.9%	72.9%	127.6%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

[ 参考：職員の対応状況 ]

質問内容 病院職員の対応

実施した調査の配布方法 外来窓口で配布 回収数/配布数 351 / 428 = 82.0%

配布(サンプル)対象 外来患者

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
職員の対応状況の回答数	116	48	8	2	174	昼前の会計は患者の数が多くて時間がかかっている。新しい病棟になれば会計の効率化が計ればよいと思います。
回答率	66.7%	27.6%	4.6%	1.1%		
前年度の回答数	209	140	6	2	357	
前年度回答率	58.5%	39.2%	1.7%	0.6%		
回答率の対前年度比	113.9%	70.3%	273.6%	205.2%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

[ 参考：その他 ]

--

(6) 七沢リハビリテーション病院脳血管センター（入院）

評価	<<評価の目安>> 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、S：90%以上 A：70%以上～90%未満 B：50%以上～70%未満 C：50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う
A	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施	実施期間：平成28年10月12日～平成28年10月19日まで実施

[ サービス内容の総合的評価 ]

質問内容 施設の療養環境、施設表示、安全性及び清潔感など

実施した調査の配布方法 利用者に直接配布 回収数/配布数 47 / 78 = 60.3%

配布(サンプル)対象 入院患者

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
サービス内容の総合的評価の回答数	18	21	5	1	45	病室内の会話がうるさい。
回答率	40.0%	46.7%	11.1%	2.2%		
前年度の回答数	17	10	4	1	32	
前年度回答率	53.1%	31.3%	12.5%	3.1%		
回答率の対前年度比	75.3%	149.3%	88.9%	71.1%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

[ 参考：職員の対応状況 ]

質問内容 病院職員の対応

実施した調査の配布方法 外来窓口で配布 回収数/配布数 47 / 78 = 60.3%

配布(サンプル)対象 入院患者

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
職員の対応状況の回答数	21	10	3	0	34	
回答率	61.8%	29.4%	8.8%			
前年度の回答数	22	13	1	0	36	
前年度回答率	61.1%	36.1%	2.8%			
回答率の対前年度比	101.1%	81.4%	317.6%	#VALUE!		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

[ 参考：その他 ]

--

7. 収支状況

評価	≪評価の目安≫ 収支差額の当初予算額：0円の施設が該当 収入合計/支出合計の比率が S(優良)：105%以上 A(良好)：100%～105%未満 B (概ね計画どおりの収支状況である)：85%～100%未満 C(収支比率に15%を超えるマイナスが生じている)：85%未満
A	

[ 指定管理業務 ]

(単位:千円)

		収入の状況				収入合計	支出の状況	収支の状況	
		指定管理料	利用料金	その他収入	その他収入の内訳			支出	収支差額
前々年度	当初予算	4,292,484	6,267,935	41,121	備考の通り	10,601,540	10,601,540	0	
	決算	4,292,484	5,429,688	58,532	備考の通り	9,780,704	9,670,582	110,122	101.14%
前年度	当初予算	4,122,927	5,896,403	42,220	備考の通り	10,061,550	10,061,550	0	
	決算	4,122,927	5,129,947	62,701	備考の通り	9,315,575	9,268,303	47,272	100.51%
28年度	当初予算	3,709,158	5,434,204	42,949	備考の通り	9,186,311	9,186,311	0	
	決算	3,709,158	4,880,106	72,307	備考の通り	8,661,571	8,515,239	146,332	101.72%

※支出に納付金が含まれる場合、その内数

(単位:千円)

28年度 / 前年度 / 前々年度 /

<備考>

前々年度/受取利息配当金収入：(当初) 7,279 (決算) 7,840 その他の収入：(当初) 22,266 (決算) 28,309 長期貸付金回収収入：(当初) 2,520 (決算) 13,383 こども園使用料・給食費収入：(当初) 9,081 (決算) 9,000

前年度/受取利息配当金収入：(当初) 4,062 (決算) 5,769 その他の収入：(当初) 23,037 (決算) 33,448 その他の事業収入(当初) 0 (決算) 215 固定資産売却収入(当初) 0円 (決算) 1,500 長期貸付金回収収入：(当初) 5,040 (決算) 13,188 こども園使用料・給食費収入：(当初) 10,081 (決算) 8,581

28年度/受取利息配当金収入：(当初) 6,794 (決算) 6,255 その他の収入：(当初) 22,599 (決算) 51,836 その他の事業収入(当初) 0 (決算) 1,062 固定資産売却収入(当初) 0 (決算) 0 長期貸付金回収収入：(当初) 3,832 (決算) 3,952 こども園使用料・給食費収入：(当初) 9,724 (決算) 9,202

[ 参考：県が支出した修繕工事費 ]

※県が支出する計画修繕工事・各所管繕工事等に係る修繕費

時期(年・月)	金額(千円)	工事箇所・内容(金額(千円))
H28.12～H29.2	4,245	神奈川県リハ病院エリア第6駐車場アスファルト舗装改修工事 4,244千円
H28.12～H29.2	4,958	神奈川県リハ病院エリア新館空調機付帯加湿器用加湿器用加熱器本体取替工事

(基本協定において県が負担することとしている修繕費等： 100千円以上)

[ 参考：資本的な収入及び支出等の状況 ]

	金額(千円)	内容(金額(千円))
収入		
支出		
積立		

## 8. 苦情・要望等

### (1) 七沢学園（児童・成人）

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備		件		
		件		
職員対応		件		
		件		
事業内容		件		
		件		
その他	来室	6 件	児童：利用者間の付き合い方に起因するユニット移動の申し出（2件） 成人：利用者間の会話内容に関する相談（2件）日常生活・外来受診に関する相談（2件）	児童：職員の見守りを強化する、「思春期」にさしかかる児童に対し適切な人との付き合いのルールを教育していくことを職員間で再確認 成人：利用者の特性や心情に寄り添った支援、受診環境の整備を実施
		件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

## (2) 七沢療育園

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備		件		
		件		
職員対応	要望	1 件	歯ブラシに食事で使用しているとろみ剤が付着していた。(1件)	その場で謝罪
		件		
事業内容	要望	1 件	個別外出に関する要望 (1件)	「個別外出」という支援の内容について説明
		件		
その他	要望	3 件	1 面会時間に関する要望 (1件) 2 外来受診に関する要望 (1件) 3 車いす乗車姿勢に関する要望 (1件)	1 施設内で検討 2 家族希望を園内で共有 3 新規車椅子完成までの対応について検討している旨を回答
		件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

## (3) 七沢自立支援ホーム

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備	苦情	7 件	1 福祉棟→病院本館の仮設通路に関する苦情 (2件) 2 自動販売機設置、備品の保管場所、駐車スペースに関する苦情 (1件) 3 デイルーム使用ルールに関する苦情 (2件)	1 法人に申し入れをし改善、傾斜に関しては引き続き注視 2 自動販売機の設置日程の確認・周知、備品保管場所の変更、駐車スペースの確保を実施
	感謝	1 件	4 自動販売機設置に関する感謝 (1件) 5 湯沸器に関する苦情 (1件) 6 外周路案内板の不具合に関する要望 (1件) 7 自動販売機に関する苦情 (1件)	3 職員に周知、利用者へは他利用者への配慮をお願いする。 5 利用ルールについて説明 6 不具合の改善 7 自動販売機設置業者へ連絡し、中身を訂正
	要望	1 件		
職員対応	相談	3 件	1 接遇に関する相談 (3件)	1 接遇改善に向けて周知徹底した。
	感謝	2 件	2 接遇に関する感謝 (2件)	
事業内容		件		
		件		
その他	相談	5 件	1 心理判定結果に関する相談 (1件) 2 食事に関する要望 (2件) 3 利用者の将来に対する相談 (2件) 4 生活全般で生じる不安に関する相談 (1件)	1 他の判定機関で検査を受けることを助言 2 要望内容を栄養科へ報告 3 情報提供、利用者・家族間の支援を実施
	要望	2 件	5 地域移行に関する苦情 (1件) 6 食事に関する感謝 (1件) 7 喫煙に関する相談 (1件) 8 地域移行に関する感謝 (1件)	4 現場職員で利用者の症状を十分に把握して支援に当たるよう情報提供 5 利用者の訴えを担当職員や上司に伝え情報を共有するとともに、担当SW及び支援員に対しては利用者の気持ちや意向を傾聴し懇切丁寧に支援を行うよう施設長より口頭注意を実施。 7 喫煙に関するルールを説明
	苦情	1 件		
	感謝	2 件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

(4) 神奈川リハビリテーション病院

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備	苦情	4 件	1 FAXの設置に関する要望 2 コンセントの使用に関する苦情	1 FAXの設置に関する情報を掲示 2 私物利用は不可であることを掲示
	要望	13 件		
	その他	2 件		
職員対応	苦情	12 件	1 職員に対する感謝 2 職員の接遇に関する苦情	2 接遇教育の徹底について掲示
	要望	5 件		
	感謝	9 件		
事業内容	苦情	3 件		
	要望	6 件		
その他	苦情	1 件	1 外来予約のルールに関する要望 2 クリーニングの運営に関する要望 3 病室内のテレビ視聴に関する要望 4 外来会計の待ち時間に関する苦情	1 予約のルールについて説明 2 再整備に係るクリーニングの事情を説明 3 看護科長より今後も該当患者への声掛けを実施することを説明 4 待ち時間が発生してしまう現状を説明
	要望	6 件		
	感謝	1 件		
	その他	2 件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

(5) 七沢リハビリテーション病院脳血管センター

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備		件		
		件		
職員対応	苦情	12 件	1 職員の接遇に関する苦情 2 職員に対する感謝 3 訓練内容に関する苦情	1 注意喚起、職員研修の実施 3 当該部署へ改善要請、リハ担当者変更
	感謝	5 件		
事業内容		件		
		件		
その他	苦情	3 件	1 退院時書類に関する要望 2 地域移行・症状説明に関する苦情2 3 症状説明に関する要望1 4 療養・地域移行に関する相談3 5 療養環境に関する苦情1 6 療養環境に関する相談1 7 療養環境に関する要望1	1 患者が希望する書類の確認を徹底 2 患者・家族の希望の傾聴、連絡の徹底 3 よりわかりやすい表現で説明 4 制度の説明、きめ細やかな対応の徹底 5 病棟内のルールに関する声掛けの徹底 6 家族の話を傾聴し、きめ細やかな対応を徹底 7 院内の案内表示に関するお知らせを配布
	相談	4 件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

## 9. 事故・不祥事等

発生日	①発生時の詳細な状況 ②県職員による確認の状況（内容及び実施日を記入） ③その後の経過（現在に至るまでの負傷者の状況、再発防止策等） ④施設に対する問題点の指摘やクレームの有無（有の場合は概要を記入） ⑤原因及び費用負担の有無（費用負担が有の場合は内容および負担者を記入） ⑥記者発表の有無（有の場合はその年月日を記入）
4月28日	<b>【七沢学園】</b> ①平成28年4月28日、居室で利用者が興奮して大きな声をあげていた。しばらくして落ちていた後、本人から「足をぶつけた」と職員へ報告があったが、その時点では腫れ等特段の変化はみられなかった。翌29日観察すると、少々腫れがあったので看護師に報告し湿布をはり様子の観察を行った。その後、痛みの訴えや歩容の変化もなく、内出血も軽減していたが、5月7日再び腫脹が出現し、看護師と共に確認した。本人へ尋ねると痛みを訴えたことから、5月9日神奈川リハ病院の整形外科を受診した。レントゲン撮影の結果、右足第2趾基節骨折（キョウコッセツ）との診断で、シーネ固定となった。 ②5月11日文書報告 ③その後5月18日、6月8日に整形外科を受診した。7月20日の受診の際、骨折が完治したとの診断で受診終了となる。再発予防については、今後は居室で高揚していたときは適宜声を掛け、それ以上興奮しないように対応する。怪我をした後も通常に歩行したり、日中活動を続けていたことで気づけなかったことから、本人の訴えがなくても継続的に患部の状況確認や本人に尋ねるなど、積極的に確認することとした。 ④家族に対しては、5月10日連絡したが、特に質問などは無かった。 ⑤居室を動き回っていた際に足をぶつけてしまったと思われる。本人は重度障害者医療証を所有し医療費の負担はない。 ⑥なし
5月23日	<b>【七沢療育園】</b> ①平成28年5月17日頃より発熱があり、泣くような表情もあり、20日に神奈川リハ病院を受診し経過観察を行っていた。その後も、状況が変わらないため再受診し、5月24日及び5月26日に左大腿骨転子下骨折並びに右大腿骨骨頭骨折との診断を受けた。 ②5月26日文書報告 ③現在順調に回復している。医師・看護師を中心とした骨折予防チームでの原因の究明や対応方法の検討を行った。 ④5月26日、家族・後見人へ医師から説明し、骨折が原因不明であることや今後の治療方針について理解を得た。 ⑤転落や転倒等の事象はなく、原因は不明である。患者の費用負担はない。 ⑥なし
8月3日	<b>【七沢学園】</b> ①平成28年8月3日朝、利用者が日課の学習課題取組みを拒否し、ユニット出入り口から靴下のまま飛び出して行ってしまった。職員が追いかけるが見失い、途中から車を使ってリハセンター外周路を捜索した。その後、夜勤退勤途中の職員から本人を見かけたとの連絡があったため向かうと、民家の庭先で警察官に保護されていた。その場で住人に話を聞いたところ、「家の中に入れてほしいとドアを叩いたので警察に電話させてもらった」とのことであった。警察官は、学園の利用者であることが判り、特に物損等の被害も無かったことから事件として扱わず、学園職員が引き取り、職員の車で帰園した。 ②8月4日文書報告 ③帰園後、身体状況を確認した。両足に水泡が出来たが、看護師と検討し、特に処置せず様子を観察した。 ④8月3日、母親へ電話連絡し、今回の経過を報告した。母親からは了解と謝罪の言葉があった。13時45分に当該民家へ園長・副園長が改めて訪問し、謝罪したところ、特に苦情は無かった。また再度、器物破損も無いことを確認した。 ⑤自閉症の利用者であり、その行動特徴を改めて認識し、パニックの状況を生じさせない対応をおこなうこと、また、扉の開閉に際しての施錠の確認を行い利用者の状況に応じた対応をとることとした。 ⑥なし

※随時モニタリングを実施した場合は必ずその内容を記載。

※過去に発生したものでも、新たな対応等を実施した場合には、その内容を記載。

※なお、大きな事故・不祥事に関して改善勧告を行わなかった場合は、その理由を併せて記載。

10. 労働環境の確保に係る取組状況

確認項目	指摘事項の有無	備考
法令に基づく手続き	無	
職員の配置体制	無	
労働時間	無	
職場環境	無	

※指摘事項は、県による監査（包括外部監査含む）又は労働基準監督署によるものとし、有とした場合は備考欄に概要を記載。